

九州大学海外派遣留学生 最終報告書

※ 帰国後 15 日以内に提出してください。
 ※ 提出された情報は、海外留学 HP に掲載します。(色のついた部分は掲載しません)

| | | | |
|-----------------------------|---|-------|------|
| 留学先大学名 | シンガポール国立大学 (National University of Singapore) (国名: シンガポール) | | |
| 留学先学部名(またはプログラム名) | Faculty of Arts and Social Sciences (人文科学学部) | | |
| 留学期間 | 2013 年 7 月 ~ 2014 年 5 月 | | |
| 学部/学府・年次 | 経済学部/学府 | 3 年次~ | 4 年次 |
| 留学により卒業または修了が遅れる見込みの有無とその期間 | ④・無 (期間: 1 年) | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 遅れる見込みの方はその理由を書いてください (NO.に○印をつける) | 1. 4年次に留学したため 2. 単位が不足するため ③. 新卒で就職したいため 4. その他(具体的に記入) |
|------------------------------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| 卒業を遅らせないためにどのような配慮や工夫をしましたか? | 留学直前まで卒業に十分な単位数を取得した。また現地でキャリアフォーラムやインターンシップなどの情報収集に努めた。 |
|------------------------------|--|

| | |
|-------|--|
| 進路の予定 | 1. 就職 (時期: 4月から / (2016)年 (4)月から) 2. 大学院進学(大学 学府/研究科) 3. その他(具体的に:) |
|-------|--|

| | |
|-----------------------------------|---|
| 前項で1と答えの方は、就活時期と方法を教えてください(予定を含む) | 就職活動時期は外国資本と日系資本の両方に挑戦するため帰国後、つまり5月からのインターンシップ選考より始める予定。来年度から日系企業の就職活動時期が遅れるため来年8月あたりまで続ける予定。方法は他の就活生とかわらずキャリアフォーラムや説明会に参加する。 |
|-----------------------------------|---|

| | |
|---------------------------|--|
| 進学先や就職先の選定に、留学経験が影響しましたか? | |
|---------------------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| 留学経験は就職活動の際に役立ちましたか? | |
|----------------------|--|

1. 留学先大学について

| | |
|--------------------|---|
| 授業(カリキュラム等)の概要について | 授業の進め方として、一つの履修科目が講義とチュートリアルから構成され、1学期15週間ある中で1~6週目、8~13週目までは通常通りの講義+チュートリアルが行われ、7、14週目が試験勉強期間、15週目からテストが始まるという構成になっている。基本的に講義では事前にインターネット上で予習としてのリーディングと講義ノートが配信され、リーディングを消化した上で講義に参加することが望まれる。講義では出席が義務づけられておらず、主に教授からのプレゼンをノートにまとめるといった形であるのに対し、チュートリアルでは出席と積極的な発言が求められる。チュートリアルでは講義の履修者を4~6グループに分け、履修者は決められた曜日・時間帯に参加する必要がある。チュートリアルでは主にプレゼンテーションやディスカッションの場が設けられ、リーディングや講義で得た知識を応用してアウトプットする力が試される。履修する科目によるが、基本的に講義、チュートリアルともに1時間35分となっている。 |
|--------------------|---|

| | |
|--|--|
| <p>留学先大学のサポート体制について (語学面／勉学面／精神面／住居・生活面など)</p> | <p>語学面では特に大学側からのサポートはない。基本的に授業は英語で行われるため、講義中も理解できない単語があった場合、各自調べる必要があるが、試験前になると、母国語が英語ではない留学生は各教科担当の教授に申請すれば試験中に辞書の使用が認められる(基本的に電子辞書は不可)。勉学面では試験直前になると学生委員会やその他の学生組織からウェルフェアパックというお菓子や飲料などが入った袋が無料で支給され、夜遅くまで勉強する生徒の支援をしている。また大学側も試験前には図書館を24時間開放し、大学全体で試験に臨む体制ができていたため安心して勉学に取り組むことができる。シンガポール国立大学の教授は教育者としての自覚が強いため生徒に対し親身になって指導する機会が多く、メールや直接訪問すれば質問に快く応対してくれる。精神面では学内に University Health Center がありカウンセリングやメンタルサービスを受けることができる。また大学病院(National University Hospital)では、シンガポール国立大学の生徒は無料で簡単な診察を受けることができるため健康面に関してもサポート体制は充実している。住居・生活面では寮の管理人が現地・留学生に関わらず親切に接してくれ、一から学校の設備を含め全て教えてもらえる。困ったことがある場合は学内に Student Service Center も存在するため、そこに問い合わせれば問題はない。</p> |
| <p>留学先大学に対する感想</p> | <p>この大学に留学できて非常に満足している。シンガポール国立大学は勉学をする最高の環境が整っていた。学内にある中央図書館は試験前になると24時間態勢で稼働し、試験期間でない場合でも ERC(Education Resource Center)に足を運べばいつでも自習が可能である。また図書館には豊富な資料が完備されているとともに、シンガポール国立大学の学生であれば世界中の論文をインターネット上で検索することができ、レポートなどの課題も完成度の高いものが作成できる。全てシラバスや配布資料は各自 IVLE (Integrated Virtual Learning Environment) というインターネット上の共有スペースからダウンロードするため、印刷する場合は手間がかかるものの、パソコンを携帯している人であればそのまま自分のパソコンにダウンロードした資料に打ち込むことが出来るため、毎回重い資料を運ぶ必要がなく効率の良さを感じた。また勉学以外にも、体を動かしたい場合はジムや競技用プールが祝日などを除く日に使用することができ、学内には CCA(Co-Curricular Activities、正課併合活動)が豊富に存在するため、体力をつけることに加え新たなコミュニティーに参加する絶好の機会になった。学内にある Hall(寮)に住むことが出来た場合、寮内にも体育系・文化系の CCA があり 2 学期目の初めに IHG(Inter Hall Game、寮対抗戦)があるため、それに向かって真剣に打ち込むことができた。シンガポール国立大学は世界各国から奨学生を募っているため、共にグループワークをする人間は優秀な生徒が多く刺激を受けることが多かった。またどの授業も専門性が高いため、深く知識を身につけることができた。学内の施設に関しては、ほぼ全てのものが揃っており外出する必要もほとんどなく、非常に快適に生活ができた。衛生面においても学内にはゴミ箱が所々設置されており、定期的に清掃員が学内の掃除をするとともにデング熱を防止するための殺虫剤も撒かれるため気にする必要がない。</p> |

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>同じ大学への留学を希望する人々へのアドバイス</p> | <p>これから留学を考えている方々のアドバイスとして以下の二点が挙げられます。一つ目は、とにかくあらゆる活動に挑戦することです。シンガポール国立大学は可能性に溢れた大学であり、個人の行動によって留学の質がいくらでも変わってきます。私の場合はホールと呼ばれる、現地生が多く住む寮に住むことができ、ローカルの友達を多く作ることができました。確かにシンガポール国立大学は世界トップレベルの大学であり、授業も大変ですが、時間を見つけて積極的にイベントに参加するべきです。最初は周りに知り合いがおらず身の回りのことに苦労することもあると思いますが、現地の生徒はそれぞれ留学生に対して親身に対応してくれるため、どんなに小さなものでも疑問や問題点があれば自ら積極的に会話をするべきです。またイベントも留学生限定のイベントのみならず、ホール内でのイベント、現地生とのイベント、学外で行われるイベントなど、探せばほぼ毎日のようにあります。留學生活を有意義なものにするためには、まず始めにネットワークづくりをすると、物事がより円滑に進み、精神的にも楽になってくるため、どんなイベントにも飛び込むことをお勧めします。半年間留学する人も、一年間留学する人も、実際に現地で過ごしてみると時間はあっという間に過ぎていきます。私の場合は一年間の留学の中でより多くの人と出会い、会話をすることを目標に留学しました。その結果、一年間を通して多くの知り合いからたくさんの刺激を受け、日々自分の考えの甘さに気づかされたり、一生付き合うような親友を作ることができたり、多くの人々と接することでかけがえのないものを得ることができました。もちろん目標は人それぞれ異なることもあり、また実際に留学先で生活することにより新たな目標が出てくることもあると思います。ここで二つ目のアドバイスとして、決断したことを全うすることを挙げたいと思います。全うすることは必ずしも留学中に一つのことをやり抜く、ということに限らず、スパンの長さに関わらずある物事に全力で取り組むことで、新たに見えてくることがあります。私の場合、ASEAN 関係の授業に熱心に取り組んでいたところ、その授業のアシスタント・ティーチャーからあるフォーラムに参加する誘いを頂き、より専門性の高い研究に取り組むことができました。「後悔は先に立たず」です。私のアドバイスが皆さんの留學生活を実りの多いものになってくれたら幸いです。頑張ってください。</p> |
|-------------------------------|--|

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>2. 事前手続き(ビザ申請など)</p> | |
| <p>ビザの種類</p> | <p>Student Pass(スチューデント・パス)</p> |
| <p>ビザ申請先</p> | <p>Immigration and Checkpoints Authority</p> |
| <p>必要書類、手続き方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ Copy of the IPA letter* ・ Passport and photocopy of the passport (biadata page) ・ Disembarkation & Embarkation card (IMM 27) ・ Printout of the Student's Pass application form (Form 16) from SOLAR, duly signed ・ One recent colour passport-sized photograph, attached to the top right corner of the form ・ The original copy of the completed medical report, X-ray report and laboratory report (must be in English) ・ Scholarship letter, if applicable <p>(http://www.nus.edu.sg/registrar/event/registration-infointstudents.html#studentpass)</p> <p>手続きの方法は大学開始時期にビザ申請の場所が学内に設けられるため、必要な書類を揃えて申請する。日本人の場合は一ヶ月間の滞在がビザ無しで認められているため、その期間に申請を終わらせビザを取得する必要がある。必要書類の紛失やビザ申請期間に間に合わなかった場合でも各自申請場所に行き、シンガポールで書類を揃えれば問題ないが、渡航前に確認し、万全の準備をしておいたほうがよい。</p> |
| <p>手続きに要した時間</p> | <p>約1～2週間</p> |

| | |
|---|---|
| <p>その他必要な事前手続き</p> | <p>特になし。メディカルチェックの証明書が英語で必要なため早いうちに場所を押さえておくとよい。 * やくいん内科循環器官クリニック(http://yakuin-cl.jp)</p> |
| <p>3. 日常生活</p> | |
| <p>日常生活の概要、感想</p> | <p>Hall(寮)に住む場合、朝・夕飯がついているため、各寮によるが朝食は 7:00～9:00、夕食は 17:30～20:00 までに寮内の特定の場所に行けばご飯を食べることができる。Residence(学内住宅施設)に住む場合は校内の食堂やレストランで食べる必要があり、自炊も可能だが食材を買う場所が近辺にないため、基本的に外食で住ませることが多い。昼食は学内に豊富な種類のレストランがあるため、食べる場所に困ることはない。平日は早い時間で 8:00 から、遅い時間帯であると 20:00 まで授業がある。日中は授業に参加し、帰宅後は次の日の予習や課外活動に取り組む日々が続いた。学習面に関しては膨大な量の予習があるため、日々根気強く取り組む必要がある。シンガポール国立大学では勉学もスポーツも両立できる環境があり、毎日充実した日々を過ごすことができる。とにかく学内でイベントがたくさんあるため、時間をいかにうまく使い、メリハリを持った生活ができるかが必要となる。勉強は確かに大変ではあったものの、多くのイベントに参加し、現地生徒や世界各国からの留学生と交流を図ったり、運動をしたりすることで適度に気分転換をとることができた。</p> |
| <p>生活費(月額)及びおおよその内訳(円換算で)</p> | <p>生活費計 55,000 円/月</p> <p>(生活費内訳)住居費: 32,000 円、光熱水料: 0 円、通学費: 0 円、食費: 15,000 円、電話代: 400 円、インターネット代: 0 円、書籍代: 2,000 円</p> <p>その他:(具体的に)移動費(公共交通機関、タクシー): 3,500 円、日用品: 3,000 円、旅行代: 20,000 円</p> <p>学費・寮費以外に大学へ納入するもの(あれば) 円 (徴収された費用の名目を具体的に:)</p> |
| <p>日本から持参した方がよいもの(PCや変圧器等の要不要も)</p> | <p>パソコンは必須アイテム。授業のマテリアルはほとんどインターネット上にアップロードされるためパソコンがないと非常に不便である。一般的に日本の電化製品は世界各国の電圧に対応しているが、持参する製品の電圧表示は確認しておくとい。現地での連絡手段は一般的に小型の携帯端末とSIMカードを一番安いもので約3,000円から購入し、通話料金がなくなり次第コンビニや通話会社に行きお金をチャージする。</p> |
| <p>これから留学する人への、日常生活(治安対策を含め)に関するアドバイス</p> | <p>日常生活に関してはそれほど心配することはない。治安は非常に良好で国内のセキュリティもしっかりしているため犯罪に会うことはまずない。しかし、シンガポールでは様々なルール(公共交通機関内での飲食禁止、チューイングガムの持ち込み禁止など)があるため渡航前に確認しておくとい。シンガポールでご飯を食べる際は、ホーカーセンターと呼ばれる屋外飲食店があり食べ物に関しては中華料理、マレー料理、インド料理に加えて世界中の食べ物を楽しむことができる。日本製のものが欲しかった場合、街中の至る所に販売している店があるため心配する必要はない。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>お金の管理や受け取り(銀行口座開設や海外送金, またはクレジットカード持参など)について, 貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。</p> | <p>渡航前に新生銀行のカード作成をお勧めする。シンガポールでは数多くの ATM が存在するが、新生銀行のカードがあればシティバンク以外の ATM から手数料無料でお金を引き出すことができる。クレジットカードは大学で発生する費用をネット上で支払う際に必要になるが、基本的には新生銀行の口座を解説しておけば問題はない。現地で口座開設してもよいが、言語や手続きの面で苦労することがあり得るため、渡航前に日本で口座を新たに開設することを勧める。</p> |
|---|---|

4. 住居、生活環境

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>住居の種類(○印をつける)</p> | <p>・<input checked="" type="radio"/> ・ホームステイ ・民間アパート ・その他()</p> |
| <p>住所／電話番号</p> | <p>1A, Kent Ridge Road, Singapore, Singapore (King Edward VII Hall) /(+65) 65165774, (+65) 65165664</p> |
| <p>費用(月額)</p> | <p>約 ¥40,000 (朝・夕飯付き、光熱費、水道代、インターネット代全て込み)</p> |
| <p>どのようにして見つけたか</p> | <p>大学先から受け入れの許可を貰い、正式に留学生としてウェブ上で手続きをする際、希望する住居を3つ選ぶことができる。この申請期間は大学側から指定され、また中には希望通りの寮に住むことができないことはおろか、選考次第では大学内の寮に住めない可能性もあるため、留学が決まった場合早めに確認しておく必要がある。シンガポール国立大学のウェブサイトに行くと大学内の寮施設の概要が掲載されているためそこで確認するとよい。さらに詳しい情報が欲しい場合は、大学側にメールを送るとよい。</p> |
| <p>次期留学生に推薦できるかどうか、およびその理由。</p> | <p>お勧めできる。 私が住んでいた King Edward VII Hall は歴史がある寮だったため、設備が他の寮に比べ古い点がデメリットとして挙げられる。しかしながら、寮全体で留学生をサポートする体制が整っており、現地生も親切に接してくれるため非常に楽しく住むことができた。また寮には数多くのアクティビティがあるため、勉強と併行して課外活動を行うことができ、メリハリの利いた生活を送ることができる。</p> |
| <p>留学生を送る上で次期留学生に伝えたい地域情報、生活情報</p> | <p>留学申請時に大学側から送られてくる資料は隈無くチェックしてください。ビザや住居に関する情報に加え、空港でのピックアップサービスなど到着後のサポートがあるためそれらを有効に活用すべきです。またシンガポール国立大学には留学生を支援する学生組織があり、そこからバディーやホストファミリーといった情報も発信されるため確認する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NUS International Relations Office (http://www.nus.edu.sg/iro/) ・NUS Office of Student Affairs (http://nus.edu.sg/osa/iss) ・The i.CARE Network (http://nus-icare.blogspot.jp) |

5. 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト

| サイト名 | URL | コメント |
|------------------------------------|---|------|
| NUS Non-graduating Programme | http://www.nus.edu.sg/registrar/edu/ng.html | |

6. その他の特記事項

| |
|--|
| |
|--|